



27

通巻 第2731号
2016年1月22日発行1960年創立
昭和35年2月5日第2510地区
重点課題

●2015-2016年度 IRテーマ

世界へのプレゼントになろう

2015-16年度IR会長

K. R. ラビンドラン

①クラブ戦略計画への支援

②新会員のフォロー支援

③クラブサポート強化

●本日 1月22日 金のプログラム

◎クラブアッセンブリー

各委員会上期活動報告・下期活動計画

●来週 1月29日 金のプログラム

◎職業奉仕委員会担当例会

スピーカー 濱本会員

●再来週 2月5日 金のプログラム

◎新入会員卓話

松尾和歌子会員

●第26回例会報告 1月15日 金 「干支会員卓話 高木(成)会員・石川会員」

●司会 廣瀬副会長

●ロータリーソング 「奉仕の理想」

●新会員推薦認証バッジ授与 廣部会長

・新会員を推薦した会員に対する褒章制度で、2013年度7月1日以降に入会された新会員の推薦者にRIより認証バッジと裏当てが贈られます。



吹越会員



野村会員

●米山功労者表彰

廣瀬会員	第4回米山功労者
岡崎会員	第3回米山功労者
佐藤(甚)会員	第3回米山功労者
廣部会員	第2回米山功労者
工藤会員	第1回米山功労者
東 会員	第1回米山功労者
坂口会員	第1回米山功労者



●会長の時間 廣部会長

残念なお知らせです。去年の12月31日付けで、2名の会員が退会されました。坪井純司会員と岡島章会員です。いずれも一身上の都合とのことです。先週の理事会で受理されました。理事会報告です。会報の最後をご覧ください。例会プログラム、来週1月22日はクラブアッセンブリーです。各委員長さんは上期活動報告・下期活動予定の報告と、同時に、会報に載せられるような形で、坂口幹事さんに文章にして提出していただくようお願いします。1月29日は濱本職業奉仕委員長さんの卓話を予定しています。2月5日は松尾和歌子会員の新入会員卓話で

す。2月12日、講師は渡邊恭久パストガバナー。但し、お話の内容が国際奉仕に関連したものになるかどうか分からないところもあります、取りあえず国際奉仕委員会担当をお願いします。2月19日は毎年の市内高校優秀卒業生表彰式。2月26日の3クラブ合同例会については、理事会でいくつかのご意見ができました。最後に詳しくご説明したいと思います。2番目のホームページ制作の件。永原広報情報真心箱委員長より、経過報告がございました。2月1日に新しいホームページに切り替えることを目指しています。3、定款6-1-Cは年度内に4回まで例会を取りやめることができるという規定です。現在まで8月14日、10月30日を休会としました。それと5月27日を予定していましたが、新たに3月11日を追加しました。これで4回となります。「第18回小樽雪あかりの路」後援。例年通り一万円の協賛金と、ざる回しということになります。それでは、2月26日の3クラブ合同例会の件に戻ります。ご意見は、要約すると、3つ。

1. ニュー三幸さんのキャパの問題。3クラブの人数がおさまりきれぬかというご意見
2. 会場を考えると、1万円の会費は高くはないか
3. 前期は、3クラブ合同例会の負担金は徴収しなかった。年度ごとに方針は別々であってもよいのか

以上について、理事会でお話したことを、補足しながらご説明いたします。ただし、会場については10月9日第5回理事会で、また、会費については12月4日第7回理事会で、会費1万円の内訳は、クラブ補助5千円、個人負担5千円ということで既に承認をいただいております。加えて、7月3日の第1回理事会の議題、銭函RC40周年登録料徴収の件、に付随しても方向性がでております。そこらへんは、会報をご覧いただくのが早いので、会報の一部をそのまま読み上げさせていただきます。私の理事会報告の部分です。『今日発行の会報に、第一回理事会議事録が載っています。その中の、議事のⅡ、銭函RC40周年登録料徴収の件をご覧ください。当初、「登録料の全額1万円を全会員から徴収したい。但し、3クラブ合同例会負担分5,000円は徴収しないこととする」と提案いたしました。しかしながら、徴収すべきは、銭函登録料の

半額、3クラブ合同例会の半額、なんでも半分とした方が良いのでは、という意見が出て、このように決まりました。』以上のような経過はありますが、貴重なご意見をいただきましたのでお答えしたいと思います。

1. 先日、小樽クラブの幹事さんから、当日、掖済会病院の落成記念パーティーとぶつかっているの、参加人数が期待ほどにはなりそうもないというお話がございました。そういうわけで、多分、大丈夫でしょう。
2. 基本的には、小樽クラブさんと銭函クラブさんがそれでいいとなれば、対外的にはOKなのですが、参加人数、料理内容等を見て、何か考えなければならぬかもしれません。そのへんは、親睦さんと相談していきたいと思います。
3. ロータリーは、一つ一つのクラブからRIまで、単年度制をとっております。毎年、クラブ内部の事情、周りの環境が違って来るわけで、その変化に合わせ、良かれと思われる道を探っていくことになると思います。その場合、年度ごとに違う方針というのもありうるでしょうし、現に、そのようになっています。

議題とは関係ありませんが、年度ごとに違って来るという点で気になったことがあるので付け加えさせていただきます。去年の12月25日の年次総会で、松浦会員が、会長ノミニーに選挙されました。その時、マイクもなしに、その場で立っての会長ノミニーの挨拶という、大変失礼な事態を招きました。過去の年度ごとの残っている限りの記録、記憶をたどっても、会長ノミニーの挨拶が

無かったことは、前年度を除いてなかったように見受けられます。百歩譲って、たとえ年度ごとの前例がなかったとしても、あの場で会長ノミニーの、きちんとした挨拶をいただくことは当然のことだと考えます。私の配慮が足りなく、松浦会長ノミニーに申し訳ないことをいたしました。お詫び申し上げます。

■幹事報告■ 坂口幹事

- ・余市RCより、上期の会報が届いております。
- ・例会会場・時間変更・休会のお知らせ
岩内RC 平成28年2月4日(木) 夜間例会
(体力増強ボウリング例会)
場所 岩内ボウル
懇親会場 「松尾ジンギスカン」
平成28年2月11日(木) 法定休会(祝日)

■会員結婚祝■ 1月結婚の会員

1/22 加藤会員



卓話会員



年男 高亦(成) 会員

今日1月15日は暦の上では「小正月」と言うそうであり、明日1月16日は「やぶ入り」であります。私も新年会が残り5回程ありますので、身体の半分はまだ正月気分が抜けない今日この頃であります。改めてこの機会に「マイク」を借りまして皆さまに「新年明けましてお目出度うございます」と心からのご挨拶を申し上げます。

今年1年「見延大ザル」先輩を始め特にサル年生ま

れのメンバー宜しくお引き立てのほどお願い申し上げます。今年の年末年始は雪の少ない穏やかな年の初めでありましたが、昨日今日と久方ぶりに雪が降り「震度3」の地震もありましたが例年に比較しますと50cmも少ない状況で特に私どもの会社では年末年始車輛の運行にはほとんど支障なく「ゴミ」の収集作業は順調にすることが出来ました。統計的には、年間に降る雪の量は大体決まっているのでいずれドカットと反動がくるかも知れませんが、「雪」の話してなんですが小樽では新聞報道などによりますと「市道」の除排雪の問題で小樽市長と市議会が「ゴタゴタ」と言うか「モタモタ」した対応で、一時はどうなるかと心配しておりましたが、多分「天」の「雪雲」も年末年始の雪を少なくしてしみんな生活の混乱を避けてくれたのかなと勝手に思ったりしておりましたが、先日別件で小樽市長に面談した際雪の議題で「選挙公約」などで「除雪の出動基準を15cmから10cmに試行的に下げましたが今年は雪が少なく市民の皆さん実感出来ませんね」と申し上げましたら「天の恵み、感謝しています」とのこと天を味方に今後一層市民の立場に配慮した市政の運営をされますよう期待しております。そこで本題に入りますが、先日「年男の卓話」で見延先輩が色々なご病気を克服され趣味というか・・・お仕事みたいにゴルフを楽しむお話がございました。健康を維持する事のご努力は大変なことだと思います。羨ましく思ったのは私だけではないと思いますが、そこで私も「健康が第一」ということで、今年の「願」かけの一言をお伝えしたいと思います。2016年平成28年1月1日付け分厚い新聞時間をかけて読みました。「正」の字はとってお

りませんがやはり「高齢化の急速な進展・・・」とか「人口減少とか・・・」「干支のサル」の話が多かった印象が残っております。私も「サル年うまれの満71才」であります。これから先家族・社会にご迷惑をかけないで「ボスザル」でなくとも「No.2」でも「No.3」でも元気に生きていけるか・・・。そこで今年1年の「願」かけをいたしました。健康が第1であります。やはり身体の健康、頭の健康いずれも自分自身の問題として自らが目標を持って生きることが大切であろうと考えます。O型人間の性格で「目的に向かって直進」とあります。そうだ生かされるのではなく、目標を持って生きようそこで神頼みであります。「15年後（86才）新幹線で元気に東京へ」であります。毎日の生活で確実に目標に近づく、ところで私には孫が男の子4人、女の子1人の5人おりますが上から3人は「大丈夫連れて行くよ、お金出してね」、下の2人は指折り数えて残念ながら難しそうであります。15年後の北海道新幹線の開通であります。実は私ども（株）クリーンサービスの会社の丁度社長室の私の位置が（仮称）「新小樽駅」の駅前広場の入口になる予定であります。

すでに関連ある「測量」や「地質検査」が進んでおり1日でも早い完成を期待しております。ところで「願」かけをした15年は元気に生きられるとする目標は良しとしても万一お迎えが来たらどうしょう。日々の生活で今日も一日元気という「メリハリ」が必要であります。そこで思い出しましたが自宅近くの桜町志賀スーパーさんの向かいの漢方薬の店の看板に「ニッコリ、ポックリいくためには健康であらねばならない」と標語が掲げられております。この看板を見るたびにといっても1日1回は通勤のため通りますので昨日も今日もそして明日も元気、15年後も元気と暗示をかけた「目標」に向かって6回目のサル年がスタートいたしました。今年1年が「前途多難」ではなく「順風満帆」のよい年になることを心から願ひ終わりになりますが貴重なお時間をいただき卓話の機会をいただきましたことに感謝申し上げ改めて今年1年小樽南ロータリークラブの皆さんのご健勝を心からご祈念申し上げ卓話とさせていただきます。ご静聴有難うございました。



一昨年の9月に入会をした石川と申します。

昭和43年9月生まれ今年48才になります。仕事は電材卸業で、電気工事屋さんで工事で使う材料を卸しているという内容です。具体的には電線を1mから何百何千とう単位で卸しております。電線には色々種類がありまして、太さが直径0.5ミリの細いものから電柱にあるような太いもの、地中に埋設するものや高い温度に耐えられるものなど用途によって様々であります。このまま電線の話が続けていても喜んでいただけるのは加藤直前会長くらいかと思しますので仕事の話はこれくらいにしておきます。

現在、子育てに追われているため趣味がありませんので、私が9年前から仕事の他に使命感を持って取り組んでいることについてお話をさせていただきます。それは小樽ジャンプ少年団という小中学生のスキージャンプ選手の団体で指導をしていることでもあります。なぜ私がジャンプ少年団の指導かという、私自身が小学校2年生の頃から26歳まで選手として飛んでいたからです。市

内の小中学校を卒業後、北照高校に入学してスキー部に所属、その後大学へ行って卒業後は札幌トヨペットに入社し、そこでも当時はジャンプ部があったので4年間選手をさせていただき26才で引退。その後、1年間新車のセールスをして、翌年28才に今の仕事に就くために小樽に戻ってきました。

自分の選手時代の話をしると、特別目立った成績はなく、どちらかというたくさん距離を飛ばす選手の盛り上げ役で前座のような位置で飛んでおりました。ただ、社会人1年目の22才の時は選手時代で一番成績を残した年であります。12月に名寄で行われる国内開幕戦で絶好調だったため、3位に入賞することができました。その時の優勝者がレジェンド葛西で、私が3位、4位が長野オリンピックで活躍した原田雅彦君でした。そのころは何度か上位入賞することが出来て、その年は1992年でちょうどアルベールビルオリンピックが開催される年でありました。あるスポーツ紙にジャンプ日本代表の予想ということで代表5名を予想する記事がありました。私の名前が外れ一位の6番目にありました。ただ、それはスポーツ紙が予想をただけで、過去に成績がない私のような選手は当然代表入りなどありませんでした。

オリンピックといえば小樽出身のジャンプ選手は古くから日本のジャンプ界を支えリードしてきました。また、設備の面でも日本の先端を行ってありまして、日本で最初にジャンプ台にナイター設備を整えたり、昭和53年にはオールシーズンジャンプ台を公認施設として日本で最初に潮見台記念ジャンツェに設置。さらに、私が携わっている小樽ジャンプ少年団は日本で最初に設立されたジャンプ少年団とのことです。設立は昭和46年で、池田先生というかたが発起人となったそうです。その翌年の昭和47年は札幌オリンピックが開催され、日本中ジャンプブームとなり各地に少年団が設立されたそうです。当時、少年団員を募集するのに市内にピラを配布したそうですが、120名の小学生が集まったそうでありました。その中に一人だけ小池葉子さんという女の子がいて、その子が男子に混じっても引けを取らないくらい上手にジャンプをしていたそうです。その池田先生曰く、女子ジャンプの最初の選手も小樽だと言っておりました。私が入

団したのは設立から5年後の昭和51年です。その時でも団員は8.0名ほどいました。当時は入団するのに体力テストというのが行われていて、誰でも入団することが出来ない状態でした。今は考えられないことです。私は中学卒業後に卒団をしましたが、少年団で経験したことはその後の人生に大きく役立っており、小樽ジャンプ少年団には本当に感謝をしています。私が卒団後、少年団は年々減少し指導者も高齢になって辞めてしまいました。そのため残った数名の選手は余市少年団に混じって余市で練習をしていました。平成20年、小樽ジャンプ少年団最後の1名の選手が中学3年生となり卒団を迎えました。卒団すると選手はゼロ名となり、自然消滅になってしまいう状況でした。そのような状況だけは避けたいと思い、活動を復活させることを決断しました。現役時代一緒に

飛んでいた仲間に声を掛け、復活へ向けてのスタートを切りました。最初はたくさんの苦勞がありました。選手集めに関しては子供のいる友達や知り合いに声がけをして、7名集めることが出来ました。しかし、スキーをできない子供がほとんどで、最初はスキー滑りの指導から始めるような状況でした。ジャンプ台もしばらく使用をしていなかったため草木が生茂って、草刈、木こりなど行って環境整備をしてきました。自分が指導をするようになって9年目になり、現在選手は8名所属しています。もう少し人数を増やし、かつて呼ばれた『ジャンプ王国小樽』の復活を夢見ております。皆さまにもぜひ小学生の子供を紹介してもらいたいです。どうぞ宜しくお願いいたします。

上半期を終えて

クラブ奉仕委員会委員長・奉仕プロジェクト委員会委員長 **廣瀬 副会長**



上半期の廣部丸が、大過なく過ごせて、幸せに思います。これも、会員皆様のご協力があったからと、あつく感謝申し上げます。

さて、年度当初に申し上げたように、「クラブ奉仕委員会」「奉仕プロジェクト委員会」二つの委員長をお引き受けいたしました。さっぱりその職責をまっとうせず、心苦しく思っております。ただ、松浦委員長が仕掛けた、国際交流会議については、それなりに成果があり、当クラブの事業として継続を考えて良いものと思います。また、見延 SAA 委員長が企画された、例会時のアイドルタイムに、音楽を流されている事は、すこぶる評判が良く、出色のものと思います。委員長に感謝申し上げます。クラブ奉仕部門においては、当クラブの永年の慣習により、委員長の企画が直接、幹事に報告されている現状です。不都合は無いのですが、出来得るなら、企画を練られる段階で呼び頂ければ幸いです。

今年度から始まりました My Rotary の「常任事務局長」としての役目につきましては、次期三役から引き続きとのお話がございましたので、もう一年続けてお手伝い致します。

2016年7月1日～2017年6月30日までの次年度役員予定者として、私の他に5名の方を My Rotary に登録致しました。2016/07/01 からアクセス可能となりますので「アカウント」をお取り下さい。

- 会 長 Masayuki Ueno**
- 幹 事 Hiroshi Misu**
- 会 計 Hiroshi Ota**
- 財 団 Akira Itagaki**
- 会員増強 Masahiro Fukushima**

■出席委員会■

●平成28年1月15日

会員総数 73名 本日の欠席者 17名
浅村、荒木、上野、小笠原、大谷、桂、角野、工藤、佐藤(公)、佐藤(喜)、鈴木、林、福井、福島、本間(清)、前川、山田

●平成27年12月25日(金)

会員総数	75名	出席摘要免除者	14名
病欠者数	0名	ホーム欠席者数	16名
メーキャップ	2名	純欠席者数	14名
確定出席率	80.28%		

■メーキャップ■

12/25山田(小樽RC)